

デジタル教科書で地図とながよし

— “地図あて” のすすめ —

大阪府公立小学校教員

1. 社会科授業のウォーミングアップは

“地図あて” から

私は学級の係活動に各教科ごとの“係”を置くことにしている。なかでも、社会科係は人気が高く毎学期志望者が多い。仕事のメインは社会科授業の冒頭の“地図あて”である。持ち時間5分の間に“地図あて”を行うのである。

“地図あて”は右表のように5段階のレベルにわかれている。最初の授業こそ教師が問題を考えるものの、2回目の授業以降は2名の係が問題を考える。一度やりかたを教えたあとは、出題する社会科係の児童たちが自分たちでレベルを決めて進行していく。3分の制限時間内に場所をさがすことができれば、小さな賞シールが与えられ、日を重ねるごとに地図帳の裏表紙には賞シールがはりつめられていく。体育科の授業に準備運動があるように、社会科授業の準備運動として、“地図あて”は効果的な手法と考えている。

2. デジタル教科書で“地図あて”

前述の“地図あて”を今年度は週に一度コンピュータ室で行うことにした。『帝国書院デジタル教科書 楽しく学ぶ 小学生の地図帳』（以下、デジタル教科書）を活用して“地図あて”を行う最大のメリットは、拡大操作ができるところにある。出題される地名は地図帳では文字ポイントが小さい場合が多い。社会科係は出題中1分ごとに「p.○の北の方」「バイカル湖の西2000km」



地図あて レベル1～5

①レベル1 あどの国どこだ？

・地図帳の「世界の国々」ページ（見開き3ページ）から指定の国を探す。

②レベル2 この都市はどこの国の首都だ？

・地図帳の「世界の国々」ページ（見開き3ページ）から首都を探し、国名を答える。

③レベル3 この市町村どこだ？—日本編—

・地図帳「日本各地方図」の指定ページにおいて、指定の市町村を探す。

④レベル4 この都市どこだ？—世界編—

・地図帳「世界各州図」の指定ページにおいて指定の都市を探す。

⑤レベル5 この町どこだ？—日本・世界編—

・指定の地名などを巻末「おもな地名さくいん」を使って探す。

など方位や距離を使ったヒントを出す。デジタル教科書の拡大機能は、ヒントを受けてのエリア絞り込みに大変役に立つ。また、ハンド機能を使うことにより地図上の視点移動も容易になる。弱視など視覚に障害をもつ児童にとっても、この機能を用いることにより“地図あて”への参加がより容易になったことは喜ばしい。

3. 点から面への地理理解

4年生は初めて地図帳を手にしたその年に、1都1道2府43県をその手におさめなければならない。しかし、“地図あて”だけでは、点（町の位置）の地理に興味関心や理解をもつだけで、面（国土）として日本の地理をとらえるには不十分であり、前述の課題達成のためにはあと一押しがほしいところである。

そこで、それをカバーしてくれるのがデジタル教科書のふろくにある「都道府県」カルタ・神経衰弱・フラッシュカードである。都道府県をイメージするにはその形を何かに例え、パズルのように頭の中で組み立てていくことが効果的であることは、多くの実践で実証されている。このふろくを活用すれば、ゲーム感覚で国土や都道府県の位置関係をエピソードとともに学び覚えることができるのである。ひとりひとりが自分のペースで強化学習を進めていける点においても、ふろくは優れたアイテムである。このふろくのうち、フラッシュカードは『楽しく学ぶ 小学生の地図帳 最新版 指導書』にも実物がふろくについているので、活用したい。



4. デジタル教科書を使って『日本とつながりの深い国々』の導入を

最後に、デジタル教科書を使った6年生の授業として、「日本とつながりの深い国をさがそう」（『日本とつながりの深い国々』10時間扱いの1／10）をテーマにした学習活動案①～⑤を提案したい。

○活動① つながりとは？

- ・距離、貿易、文化、学術、流行などさまざまな点で外国とつながっていることを確認する。

○活動② 距離的に近い国を調べよう

- ・デジタル教科書p.4「宇宙からながめた日本列島」を用いて、マウス移動と縮尺利用により距離的に近い国をさがす。

○活動③ 貿易でつながる国を調べよう

- ・デジタル教科書p.71「日本と世界の結びつき」を参考に拡大機能を利用して日本と貿易においてつながりの深い国々をとらえる。

○活動④ 自分につながりのある外国を調べよう

- ・家族の渡航経験や持ち物、興味のある国、行ってみたい国等をデジタル教科書の世界に関わるページ（p.75～86）を活用して調べる。

○活動⑤ 自分が調べたい国を1つ決めて調べる計画を立てる

